



アマチュアオーケストラ

新交響楽団第242回演奏会

The New Symphony Orchestra — 242nd Concert

指揮 山下一史

YAMASHITA Kazufumi, conductor

ヴァイオリン独奏

MATSUYAMA Saeka, violin

松山 冴花

GLAZUNOV グラズノフ

演奏会用ワルツ第1番

Aleksandr GLAZUNOV (1865-1936): Concert Waltz No. 1 in D major, Op 47, 1893

TCHAIKOVSKY チャイコフスキー

ヴァイオリン協奏曲

Pyotr Ilyich TCHAIKOVSKY (1840-1893): Violin Concerto in D major, Op. 35, 1878

交響曲第4番へ短調

Pyotr Ilyich TCHAIKOVSKY (1840-1893): Symphony No. 4 in f minor, Op. 36, 1878

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

17:00 開場

2018年8月4日(土) 東京芸術劇場コンサートホール 18:00 開演

Saturday, August 4, 2018, 6:00pm (doors open at 5:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,500 B席: ¥1,500 (全席指定)

88 ペアチケット (お二人様で合計 88 歳以上のお客様は合計金額から 1,000 円を割引させていただきます。下記コンサートイマジンのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイマジン 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み: チケットぴあ: 0570(02)9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス: 0570(010)296 *10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki/i/t/> *0570 で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyō.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

偉大なメロディメーカー チャイコフスキー

チャイコフスキーはクラシック音楽の中でも、最も愛されている作曲家の一人といってもよいでしょう。メロディーは甘美で叙情的、オーケストレーションは壮大で華やか。クラシック音楽にあまり詳しくない方でも、聴いたことのあるチャイコフスキーの曲は多いはずです。今回は、チャイコフスキーの3大交響曲の一つ交響曲第4番と、4大ヴァイオリン協奏曲の一つと称される彼の協奏曲を取り上げます。

チャイコフスキーにとっての「1877年」

チャイコフスキーは1840年生まれのロシアの作曲家です。法律を学び法務省に勤めていましたが、22歳のときペテルブルク音楽院が創立したのを機に作曲の勉強に専念します。53歳でコレラにより急死するまでの約30年の作曲家人生の中でも、交響曲第4番を作曲した1877年前後は名曲ぞろいです。同じ年にバレエ「白鳥の湖」、オペラ「エフゲニー・オネーギン」が完成し、翌年にはヴァイオリン協奏曲を作曲しました。

この年にチャイコフスキーの身に何があったかというところ、まず一つはメック夫人という富豪から多額の資金援助を受けるようになり、教職を辞め作曲に専念できるようになったこと。メック夫人とは一度も会うことはありませんでしたが、亡くなる数年前まで資金援助と書簡での交流は続き、交響曲第4番は彼女に捧げられています。それから、ヴァイオリン奏者のコーテクという青年と出会ったこと。チャイコフスキーは同性愛者でコーテクは愛人であったと言われていますが、彼のヴァイオリン協奏曲の作曲にはコーテクが関わっていました。そして電撃結婚。元教え子アントニーナにラブレターをもらい、宿命と感じたチャイコフスキーは翌月には婚約、挙式をしましたが、同居生活に耐えられず自殺を図った末に結婚は破綻しました。

人の心に語りかけるチャイコフスキーの音楽

交響曲第4番は、「宿命」の動機といわれる印象的なファンファーレで始まり、人生の幸福と苦悩、楽しさと辛さ、懐かしさと諦めが散りばめられた「言葉のないオペラ」のようです。チャイコフスキー自身の経験が、作品を飛躍させたのでしょうか。

指揮の山下一史氏は円熟期にさしかかり、我々団員もそれぞれの人生をいろいろな想いで過ごしてきて、今の新響だからこそ表現できるチャイコフスキーの第4番を、大切に演奏したいと考えています。

ヴァイオリン協奏曲は、結婚の失敗から心を病みスイスのレマン湖畔を訪れていたときに書かれた作品。当時のペテルブルク音楽院教授のヴァイオリンの名手に「演奏不能」と拒否されたことで、技巧的な面がクローズアップされがちですが、美しく躍動的で、洗練された中にもロシアの民族的な顔をのぞかせ、オケとの対話も魅力的な名曲です。

今回ソリストはニューヨーク在住の松山冴花氏。新響はブラームス、ベートーヴェンの協奏曲を共に演奏してきましたが、さらに深みのある演奏を期待しています。

民族的な作風でチャイコフスキーの後継者ともいわれたグラズノフの美しい小品とともに楽しみください。(H.O.)

今後の演奏会予定

<第243回演奏会>

2018年10月8日(月祝)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎

曲目 ワーグナー / 歌劇「ローエングリン」第1幕への前奏曲、第3幕への前奏曲、ブルックナー / 交響曲第7番

<第244回演奏会>

2019年1月20日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎

曲目 ワーグナー / 楽劇「トリスタンとイゾルデ」第2幕 他

<第245回演奏会>

2019年4月29日(月祝)14時 東京芸術劇場

指揮 湯浅 卓雄

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、シヨスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979~90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井真木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井真木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ~良いお席を安く~

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。3ヶ月~1歳 2,560円、2歳~6歳児 2,160円。お申込み・お問合せ：HITOWAキャリアサポート株式会社 さらべうた電話0120-415-306(平日9:00~17:00、土日祝日休み)